

～ひとり一人の気づきを地域の方へとつなげるために～
「災害ボランティア活動センター」の運営と支援に関する調査事業報告書」(要旨)

防災ボランティア活動検討会 事務局
株式会社 ダイナックス都市環境研究所

この要旨は、本編報告書の11ページを抜粋。

1. 成果：被災地におけるボランティア活動は必要である

被災者ひとり一人の思い・状況・要望をきめ細かく受け止め、行政による公的支援の限界にとらわれずに被災者支援を実施することができる
被災者ひとり一人や被災地に住民同士が復興において自発的かつ地域の特性を活かした取り組みを進めていけるよう応援することができる
要援護者対策や、きめ細やかなニーズへの対応力を高め、専門性のあるボランティア活動を創りだすことができる
被災地を応援する全国の支援者やボランティアの自発性・思い・機動力を活かし、被災地内外における自助や共助の力を高めるきっかけとなる

2. 課題：被災地におけるボランティア活動は発展途上である

混乱する被災地での初動体制を協働で創りだすノウハウが構築されていない

災害VCを社協が主体となって設置するにあたり、被災状況や社協の本来業務との関係などにより災害VC専用のスタッフ確保が難しい場合、長期に中心となって全体を支える人材を確保できず、組織基盤体制が不明確なまま窓口が設置されてしまい、混乱が続くことになる。

(提案3)

災害VC運営経験者のいない災害VCに対し、現場運営への提案をする複数の助言者がいる場合「誰を信用していいのかわからない」という現地職員の不信感や不安感を増長させてしまう原因となりえる。(提案3)

地震に対応する災害VCの運営の考え方や留意点がわからないまま、とりあえずボランティアがたくさん来るからという状況に対応して立ち上げを行うと、活動の充実が図りにくい。(

提案3)

資源や資金の提供について、「今欲しいものをすぐに確保できない」状況に陥ると意欲や勢いが低下し、運営に滞りが生じてしまう。(提案2)

災害VCやNPO・ボランティア団体の基盤を支える資材がすばやく現地に届くしくみがなく個々ばらばらに調達されており、無駄がある。(提案2)

人件費、一部メンバーの交通費など、間接経費が確保できず、体制の基盤強化や運営そのものに大きな支障をきたしてしまう。(提案2)

被災者主体のボランティア活動をどのように展開するかわからない

災害VCは外部ボランティアのコーディネートに追われやすく、小域福祉活動など、社協の日常につながりを活かし、被災者主体のボランティア活動を展開することが難しい。(提案1)
ボランティアの満足・納得を重視することで、被災者主体のボランティア活動を展開することが難しい。(提案1)

要援護者の対応が一律均等になりやすく、個別支援が難しい。(提案 1)

災害ボランティア活動として、どこまで被災者の要望に応えるのか判準が示されておらず、現場対応にばらつきがある。(提案 1)

行政の専門機関との役割分担が明確でなく、公的支援へのつながりが難しい。(提案 1)

被災者は誰が信頼できるボランティアか判断が難しい。(提案 1)

災害 V C 運営のノウハウが蓄積されていない

災害 V C の運営について知識や経験のある人材が少ない中、被災地社協の運営に混乱が生じる、あるいは未経験者を含めた入れ替わりの人材で災害 V C を運営することが難しい。(提案 3)

現地災害 V C では長期ボランティアや派遣職員を活かすしくみができておらず、適切な人材配置ができず、運営が滞りやすい。「なぜ、そのひとがここにいるか」「どういう姿勢や対応が求められるか」について現地と共通認識が持ちにくく、双方に不満と不信感が募る。(提案 3)

現地災害 V C を支えるための広域支援体制として、派遣者を選定して適切な地域・部署に送り出すしくみがないため、現場の運営を改善できない。(提案 3)

被災地でのボランティア活動を支えるしくみが構築されていない

ボランティアが保険のしくみや自分が加入しているかについて認知しないまま、何度も加入することを防げない受付対応をしており、事務手続きの負担が現地災害 V C にのしかかっている。(提案 2、3)

ボランティアや派遣職員に対する食事や宿泊サービス、メンタルケアの提供などを実施すべきか否か、いつまで誰に実施するのかの判断が難しい。自己管理の低いボランティアに対するリスクマネジメントができなかったため、事件や疾病につながった。(提案 2、3)

フェーズごとに必ず求める資材や物資は限られているが、全国から個別ばらばらに被災地や災害 V C に届けられるため、仕分けの負担とミスマッチが生じ、迅速な活用が難しい。(提案 3)

資金支援や助成のしくみがどのようになっているのかという情報が現場に届きにくい。手続きの簡素化が求められている。(提案 3)

資金助成や支援のメニューとして、先駆的・必要性の高いプロジェクトにまとまった支援を行うしくみや人件費、交通費などの間接経費を支援するしくみが欠如している。(提案 3)

資金や資材を必要とする現地の状況と全国各地の支援希望者や企業に情報発信し、効果的な対応を促す広域支援が求められているが、これらの声に対応するしくみができておらず、現場の運営を改善できない。(提案 3)

3 . 提案 : 被災地におけるボランティア活動を支える取り組みが求められている

提案 1 被災者主体の災害 V C ・ボランティア活動を充実させるため、考え方・留意点などの情報共有化を図る。

提案 2 災害 V C ・被災地で活動するボランティア団体・NPO の機動力を高めるため、資金・資源ニーズにすばやく対応するしくみづくりを進める

提案 3 災害 V C 運営やボランティア活動を支える「コーディネーター・リーダー」を養成し、適切な人材・組織が現地で協働できるように調整・支援するために広域連携可能なしくみづくりを進める。

平成 17 年度災害ボランティア市民活動支援に関する検証プロジェクト 作成